

【GAP Japan2017】

JAグループのGAP対応について

2017年9月26日
JA全農 参事 立石幸一

Copyright©2017 全国農業協同組合連合会



1. JAグループのGAPに対する基本スタンス

GAPをする

- GAPは、農業者自らの経営改善活動として推進する。
- (これまでも、GAPの一部である農薬の適正使用・記録は、「生産履歴記帳運動」という形で、取り組んできた経過あり)
- 将来的には、その取組水準を、仮に認証取得を求められても速やかに対応できる水準にまで引き上げていく必要がある。
- とりわけ食品安全の取組みについては、食品製造業のHACCP義務化に備え、早急に取引先に説明可能な状態にしていく。

GAP（認証）をとる

- 取引先からGAP認証取得を求められる機会は、今後、拡大していくと見られることから、認証取得を希望するJA生産部会等の支援を通じて、早期にJAグループ内で認証取得のノウハウを確立する。
- 認証取得に際しては、JA生産部会等を念頭に、団体認証を基本として取り組む。
【団体認証のメリット（個別認証との比較）】
- 生産者1人あたりの審査料は、個別認証に比べて抑えられる
- GAP規格の要求事項の一部は、JA事務局が代替するため、生産者の事務負担は軽減される

JAグループ全体で積極的にGAPに対して取り組んでいく。

Copyright©2017 全国農業協同組合連合会

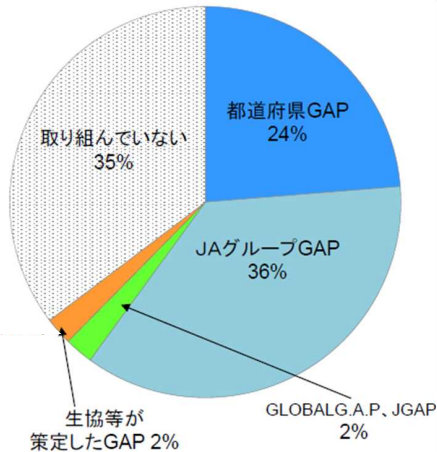


2. JAグループのGAPの取り組みの現状と課題

GAP実践のレベル

- 1つの生産部会でも何らかのGAPを実践しているJAの数は、全体の約7割。
- 農水省ガイドライン準拠のGAPを実践している国内産地は24%程度。

<参考> 各産地のGAP取組状況



(出典) 農水省調べ。平成28年3月末現在

(※1) 調査対象は、野菜、米、麦、果樹、大豆の産地強化計画等を作成している産地（平成28年3月4,379産地）

(※2) ガイドラインに則したGAPは、「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」（平成22年3月農林水産省生産局）における法令上の義務項目を全て満たし、かつ法令上の義務以外の項目の8割以上の項目を満たしているもの。

団体認証の取得状況

- 現状、JA生産部会での認証取得数はごくわずか。（一般に、JA生産部会が団体認証を取得するのは、認証取得にかかる審査料や事務負担に見合う販売先が確保されている場合）

担い手農家の認証取得への意欲

- 大規模法人や若手生産者のGAP認証取得への関心は高い。
⇒GAP認証を希望する生産者への対応については、JA毎に異なる。成功事例を参考に、営農指導部署の役割分担を明確化し、認証取得に向けて関与していく。

課題は多いが、関心が高まる中で取り組むメリットも大きい。

Copyright©2017 全国農業協同組合連合会

3

3. これから3年間で取り組むこと

1. GAP・GAP認証の仕組みを理解し、現場で実践できる「指導員」の育成

- ① GAP講習会の開催
 - 第三者認証のGAP規格（JGAP, ASIAGAP, GLOBALG.A.P.）の仕組みや内容を学ぶ講習会の開催。
- ② 現地アドバイザーの派遣による指導員の育成
 - 団体認証事務局の経験者や、団体認証の指導実績のあるコンサルタントを現地アドバイザーとしてJA生産部会へ派遣。JA営農指導員や県域組織の職員が同行し、指導員としてのノウハウを吸収。

2 JAグループ内における団体認証取得ノウハウの蓄積・共有

- ① ノウハウの整理と事例共有
 - GAPの実践・認証取得に際し、生産者の労力と、審査費用・コンサル費用を最小化するためのノウハウ（生産者、事務局JA、県域組織、普及指導員の役割分担、他）を整理。事例を共有。
 - 生産者向けにGAPの実践内容を説明するDVDを作成（各連の資材も活用）
- ② 生産者・JA事務局の審査・更新時の労力省力化に役立つシステムの開発

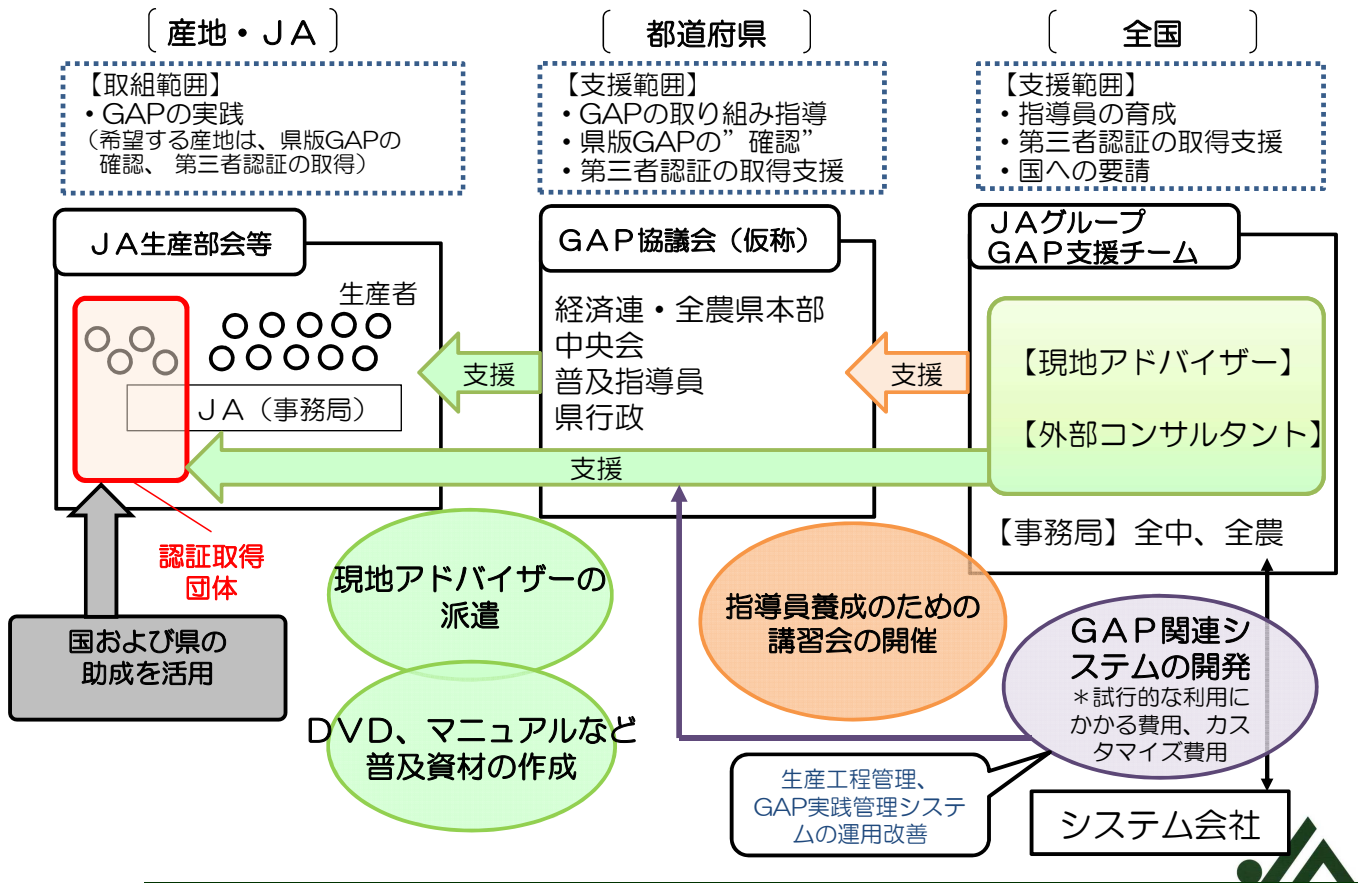
3 認証取得品の出口となる販売先の開拓・価値の共有化

- 全農を中心として、契約販売を前提とした実需者とのネットワークづくり、価値を共有できる販売先の開拓。

Copyright©2017 全国農業協同組合連合会

4

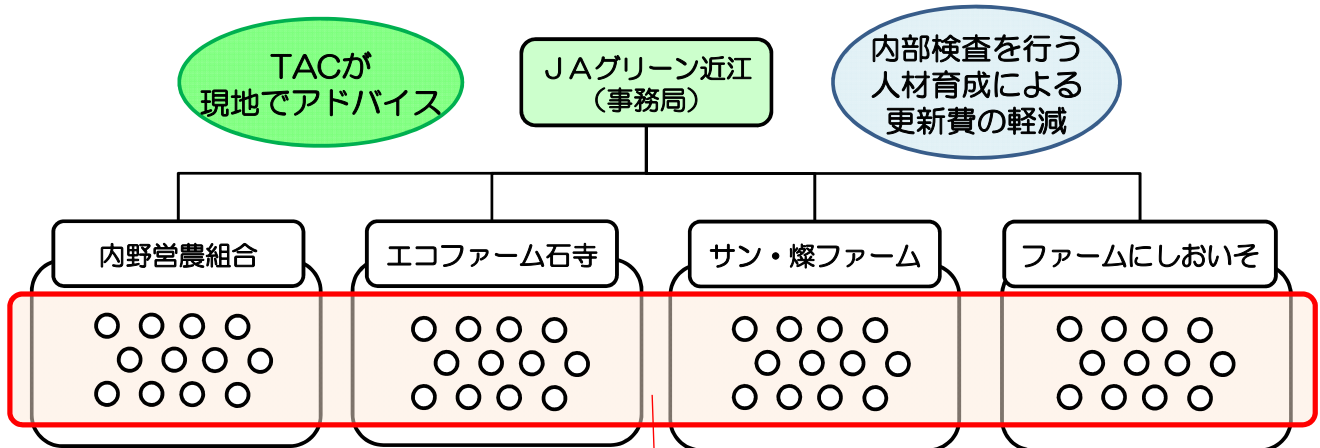
4. 連携イメージ



Copyright©2017 全国農業協同組合連合会

5

5. 認証における取り組み事例（グリーン近江）



団体認証取得（4法人、各70～80戸、計332戸の生産者が所属）

【写真：GAPについての研修会（座学・現地）の様子】



Copyright©2017 全国農業協同組合連合会

6

6. 認証取得に向けた取り組みの事例（グリーン近江）

【グローバルGAPの導入スケジュール】

年月	内 容
平成26年度	
7月	GAPについて座学・モデル農場での農場評価
8月	GAPについて座学・上記農場評価について検討
12月	GAPについて座学・改善後の農場評価
	上記と別農場の評価
平成27年度	
7月	J A事務局のGAP管理システム指導
	4法人集合研修（リスク評価と安全研修）
8月	内部検査
	J A事務局の内部検査
12月	内部検査、J A内部検査
平成28年度	
6月	内部検査、内部監査
10月	グローバルGAP認証審査（収穫現場確認）
平成29年度	
3月	J A事務局の自主内部監査、4法人の自主内部検査（TAC部署により実施）
4月	グローバルGAP認証審査（本審査）
5月	グローバルGAP是正報告完了
8月	8月8日認証取得

【取り組みの背景】

- ・農作業中の労働事故の低減について関心があった
 - ・4法人において共同出荷、共働作業を検討
- ⇒GAPの取り組みを利用して、統一目線での管理を目指したのがきっかけ。

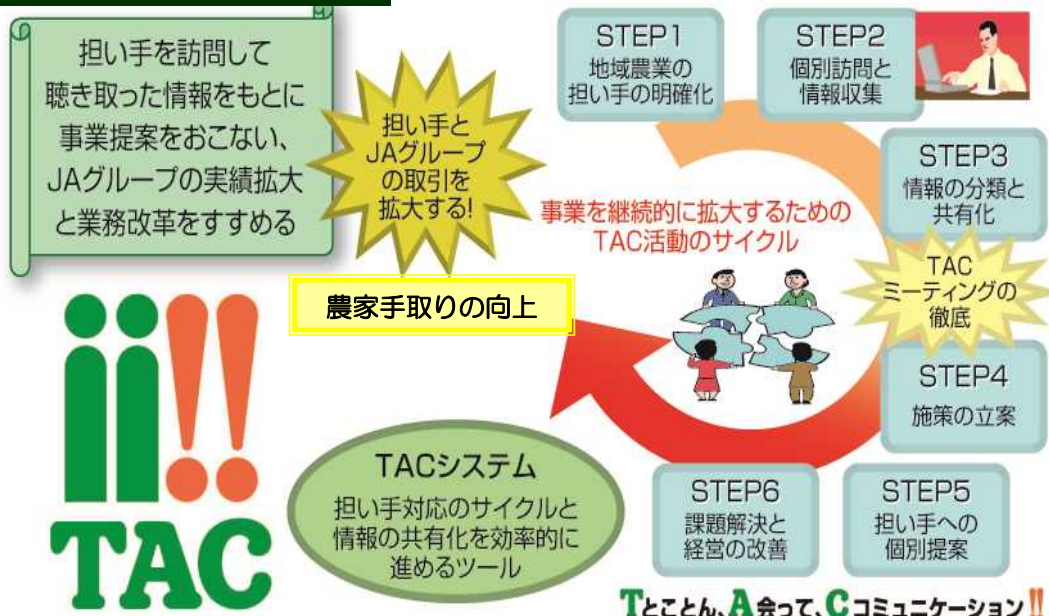
各段階にてTACが中心になりながら現場を支援して認証を取得。

7. TACの取り組み

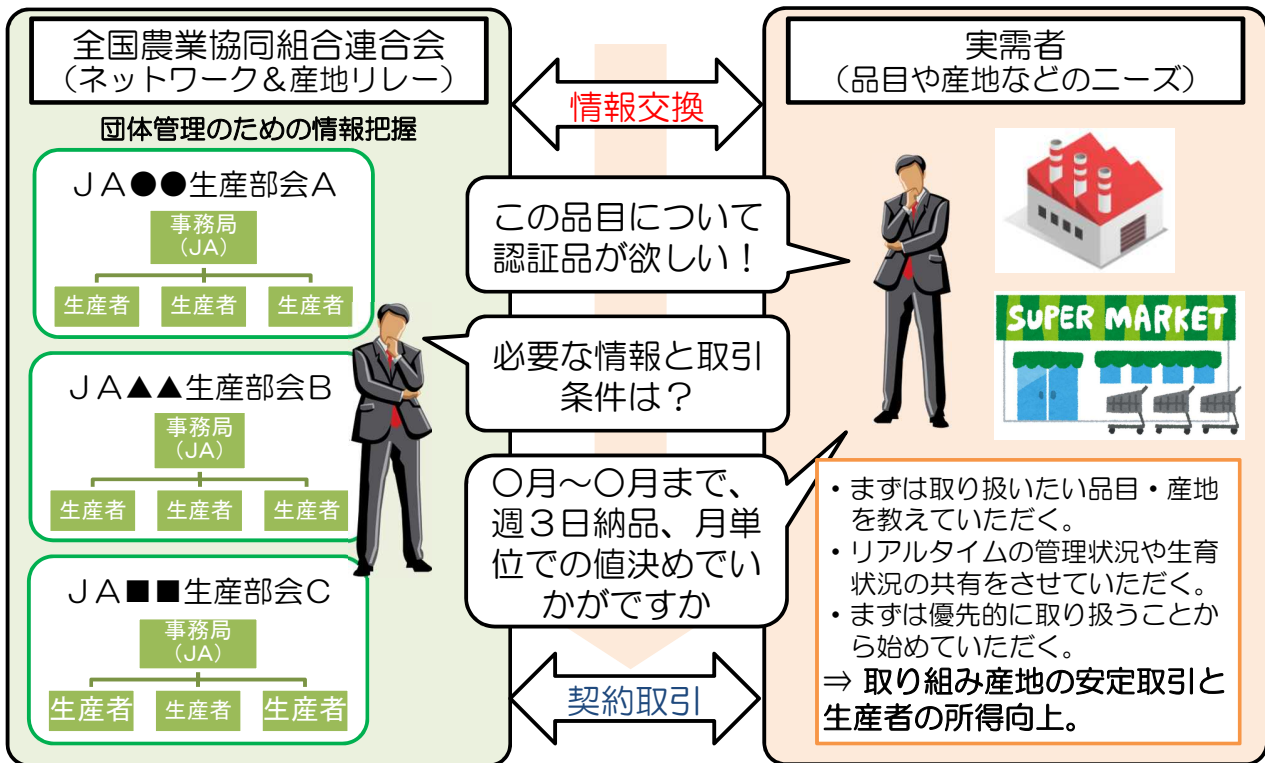
TACとは

- ・地域農業の担い手を訪問し、声・要望を収集するJA担当者。
- ・Team for Agricultural Coordinationの頭文字。
- ・活動は10年目を迎え、264JA約1800人が日々80,000戸以上の農家に訪問している。

TACの活動目的と手順



8. GAPを活用したマッチングイメージ



JAが団体事務局として得た生産者情報をもとに、実需者の皆様のニーズに合うGAP取り組み産地をマッチング。